令和7年産 大豆栽培こよみ

あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

※肥料・農薬名は農協の推奨品目です

～基本技術の徹底!! 収量・品質の向上を目指しましょう!!～

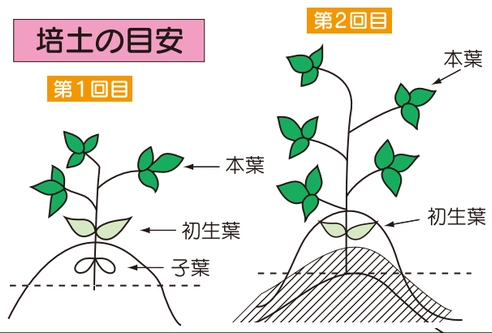
1. 播種前から収穫まで排水対策を徹底	2. 石灰質資材と堆肥等の施用で土づくり	3. 適正な栽植本数の確保	4. 晴れ間を逃さず2回培土を実施	5. 病害虫防除の徹底	6. 開花期から9月上旬まで水分不足時は畦間かん水	7. 子実水分22%を切ったら刈取り開始

目標単収200kg/10a以上
3等以上を60%以上に

目皿の交換

スプロケットの調整

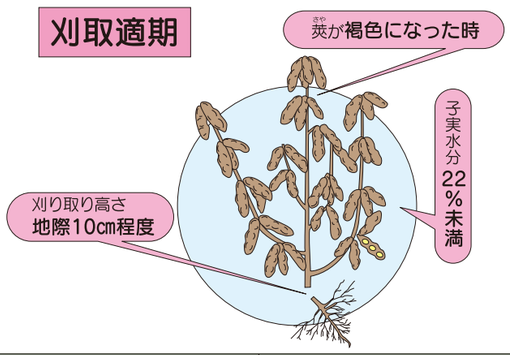
培土の目安



病害虫防除は遅れないよう実施

ウコンノメイガ　紫斑病　ホソヘリカメムシ　イチモンジカメムシ

刈取適期

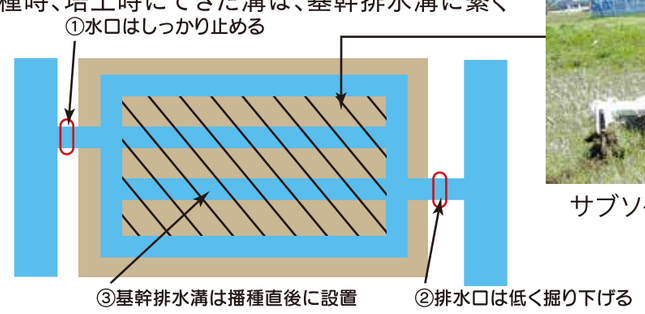


月別	4月	5月	6月			7月			8月			9月			10月	
旬別			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
			播種・出芽・苗立	2～3葉期	4～5葉期			開花始め	着莢始め	莢伸長期		子実肥大期		黄葉期	落葉・成熟期	
主な作業	排水対策	土づくり	除草剤散布 播種 耕起・整地 施肥		培土(第一回)	培土(第二回)		ウコンノメイガ防除	基本防除(二回目)		基本防除(二回目)	随時防除(害虫発生時)			収穫	乾燥調製

開花期以降晴天が3日続いたら畦間かん水

1.排水対策の徹底

○4月中にほ場が乾いている時に額縁排水溝を掘る
○排水不良田は、積極的に心土破砕を実施する
○播種時、培土時にできた溝は、基幹排水溝に繋ぐ



サブソイラーによる心土破砕

2.土づくり

○pHを高めるため、石灰質資材を必ず散布する

(10a当たり)

		一般田	赤土客土田
土改資材	苦土石灰	100～200kg	
	粒状ようりん	—	20～40kg

○有機物で地力の向上

堆肥等の10アール当り施用量の目安
牛ふん・豚ぷん、籾がら堆肥　1～2t
発酵鶏糞 → 100～200kg

緑肥作物のすき込み(5月中旬)
エンバク:3月下旬播種(播種量6～8kg／10a)
ヘアリーベッチ:前年秋播種(播種量4kg／10a)

3.種子消毒

○主要病害虫防除のため、種子消毒を必ず実施する

薬剤名	対象病害虫	処理方法
クルーザーMAXX	アブラムシ類、タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ 茎疫病、リゾクトニア根腐病 苗立枯病(ピシウム菌)、紫斑病	乾燥種子5kgあたり 原液40㎖塗沫処理

4.耕起～播種

○6月上旬以降のほ場の乾いている日に播種する
○播種時期や品種に応じてスプロケットと目皿を交換する
○耕起、施肥、播種、除草剤散布までの作業は一日で終える
○青立ち防止のため、過剰施肥は避ける

〈耕起〉
砕土率(2cm以下の土塊)60%以上を目安に起こす

〈施肥(側条)〉

(10a当たり)

	資材名	一般田	赤土客土田
基肥	BB084	20kg	30kg

※全層施肥の場合は、窒素成分で2割程度増やす
※麦跡の場合は、麦稈の腐熟を促すため窒素成分で1～2kg程度増やす

〈播種〉
○3cmの播種深度と栽植本数の確保に努める
品種・播種時期別の目標栽植本数の目安

(10a当たり)

品種	播種時期	栽植本数(本)	条間(cm)	株間(cm)	播種量(kg)(大粒換算)
エンレイ(えんれいのそら)	6月上旬	14,000～16,000	80	14～16	5.1～5.9
	6月中旬	16,000～18,000		12～14	5.9～6.6
シュウレイ	6月上旬	12,000～15,000	80	15～19	4.4～5.5
	6月中旬	15,000～18,000		12～15	5.5～6.6
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	80	19～22	4.0～4.9
	6月中旬	12,000～14,000		16～19	4.9～5.7

※大豆の連作はやめましょう
(雑草・病害虫が増え、地力も低下)

5.雑草防除

雑草防除は、培土が基本! 晴れ間を逃さず、2回実施!

〈播種直後〉
○播種、覆土後、土に湿り気があるうちに散布する
○砕土率を高め、均一に散布する

〈生育期間中〉
○発生雑草に応じた薬剤を使用し、まき遅れない
○大豆に薬害が出る場合もあるので、使用上の注意をよく読んだうえで使用する

大豆ほ場への侵入、蔓延を防ぐため、早めに発見し種子を作る前に抜き取りましょう。

マルバルコウで覆いつくされたほ場

	薬剤名	10a当たり散布量	適用雑草
播種直後	ラクサー粒剤	4～6kg	1年生雑草
	プロールプラス乳剤	薬量:400～600㎖(水100ℓで希釈)	

	薬剤名	10a当たり散布量	適用雑草	処理方法	使用時期
大豆生育始期	パワーガイザー液剤	薬量:200～300㎖(水100ℓで希釈)	1年生雑草	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	出芽直前～3葉期(雑草発生始期～2葉期)
大豆生育期	ポルトフロアブル	薬量:200～300㎖(水100ℓで希釈)	1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	雑草茎葉散布	イネ科雑草3～10葉期 収穫30日前まで
畦間処理	大豆バサグラン液剤	薬量:300～500㎖(水100ℓで希釈)	1年生広葉雑草	畦間雑草茎葉散布※注	大豆の生育期(雑草6葉期まで) ただし収穫45日前まで
	ロロックス(水和剤)	薬量:100～200g(水70～150ℓで希釈)	1年生雑草	畦間・株間処理※注	本葉3葉期以降(雑草草丈15cm以下) ただし収穫30日前まで
	ザクサ液剤	薬量:300～500㎖(水100～150ℓで希釈)	1年生雑草	畦間処理※注	雑草生育期 ただし収穫28日前まで

※注　畦間・株間に処理する場合は、必ず吊り下げノズルを使用する。

6.畦間かん水

○開花期(7月末)から9月上旬までの間で3日以上晴天日が続く場合は畦間かん水
○水が行き渡ったら、速やかに排水する

こうなる前に畦間かん水

水不足の大豆葉

7.本田病害虫防除

○発生している病害虫を見極め、適期に防除する

防除時期			対象病害虫	農薬名と使用方法 粉剤	農薬名と使用方法 液剤
基本防除	1回目	8月上中旬(開花期～若莢期)	紫斑病 カメムシ類 マメシンクイガ	トライトレボン粉剤DL 4kg/10a(収穫14日前まで)	プランダム乳剤25(4,000倍) カスケード乳剤(4,000倍) 150ℓ/10a(2剤とも収穫7日前まで)
	2回目	8月中下旬(1回目の10～14日後)	紫斑病	Zボルドー粉剤DL 3kg/10a	アミスタートレボンSE(1,000倍)※ 150ℓ/10a(収穫14日前まで)
			カメムシ類 マメシンクイガ	ダントツH粉剤DL 4kg/10a(収穫7日前まで)	
随時防除	7月下～8月上旬		ウコンノメイガ(ハマキムシ) マメシンクイガ	—	プレバソンフロアブル5(4,000倍) 150ℓ/10a(収穫7日前まで)
	8月下～9月上旬		フタスジヒメハムシ カメムシ類	スタークル粉剤DL 3kg/10a(収穫7日前まで)	カスケード乳剤(4,000倍) 150ℓ/10a(収穫7日前まで)
	8月下～9月中旬		ハスモンヨトウ カメムシ類 マメシンクイガ	—	トレボン乳剤(1,000倍)※ 150ℓ/10a(収穫14日前まで)

※混合剤も含めた総使用回数は、トレボンが2回まで

8.刈取り

大豆専用コンバインの使用上の留意点

○青立ち株や大きな雑草は、収穫前に抜き取っておく
○子実水分が22%を切ったら刈取開始
○刈取高さは地際から10cm程度とし、土を掻き込まない
○刈取作業は莢の乾きを確認し、原則午前10時～午後4時までに行う
○莢や茎が湿っている場合は作業しない

※規格外になると数量払いの対象になりません

汚損粒は絶対に出さない
※土や草汁が汚損粒の一番の原因です

食の安全は栽培記録とGAPの確実な実践から　作業の後は忘れず正確に記録しましょう!